

ペーパーレス化の取組

事業所概要

- ・事業所名：特別養護老人ホーム美里園
- ・サービス種別：介護老人福祉施設（定員：50人）
- ・介護職員数：24人（日本人：11人、外国人：13人）
- ・プロジェクトメンバーの構成：介護職員、看護職員、生活相談員、介護支援専門員、事務職員

取組に至った背景

- 記録や事故報告書が紙ベースで回覧されていたため、回覧時にどこかに紛れ込んでしまい、回覧が終わるのに時間がかかる、集計や報告書が遅れてしまうといった事態が頻発。
- 手書きが苦手な外国人介護職員の場合は、日本語での表現が曖昧なところ、意味の伝わりにくいところなどを添削し、何度か、ひやりはっと・事故報告書をやり直してもらわなければならないといった課題があった。
 - ・事故・ひやりはっと報告書の作成・閲覧に時間がかかり、同一利用者の事故、同様の事故・ひやりはっとの発生抑止につながらない。
 - ・申し送りについて、分かりにくい記録や、伝わっていないことがある。
 - ・日常の排せつ、食事、入浴について記録用紙に記入してから介護ソフトへの転記をしているため、非効率。
 - ・外国人介護職員の文字・数字の読みづらさ。

課題解決のプロセス

- Step1
報告書関係の業務棚卸シート作成
- Step2
介護ソフトの定型文の整理
- Step3
ノートパソコン購入(タッチパネル型)
- Step4
全職員が排泄記録から介護ソフトにパソコン入力し徐々にステップアップを図る

※取組時のポイント・工夫※

- (1)手書きからパソコン入力へスモールステップ
簡単な入力から、徐々に入力業務を増やしていく。
- (2)期限を決め職員全員がパソコン入力できるよう進める
全員がパソコン入力できるように期限を決めて紙からパソコンへ進めていく。



取組効果

【質的な効果】

- (1)パソコン入力を行う専属の事務職員がいたが、職員全員で入力することにより事務職員が別の業務を担えるようになった。
- (2)パソコン入力することで外国人介護職員の文字・数字の読みづらさは解消された。

【量的な効果】

転記作業をなくしパソコンへの直接入力へ変更
→ 夜勤1名・日勤3名の体制で、1人あたり1日約40～50分時間短縮

同様の取組を検討している事業所へのアドバイス

- ・介護ソフトの定型文整理や業務棚卸により、パソコンが苦手な職員も取り組みやすくなる。
- ・手書きからパソコン入力へ移行することで、報告書回覧の時間が短縮
- ・外国人職員の文字・数字入力の読みづらさが改善し、負担が軽減される。
- ・苦手な職員にはスモールステップと期限設定で、入力作業への意欲を維持しやすくなる。
- ・少しずつ改善できるよう、継続的にサポートする体制が重要

